

至適使用のポイント（医療従事者用）

- 低血糖の指導の重要性が高いのは、**1型糖尿病と低血糖のハイリスク薬（インスリン/SU薬/速効型インスリン分泌促進薬）を併用している2型糖尿病の患者です**。SGLT2阻害薬を開始する際には、低血糖のハイリスク薬の減量を考慮する必要があります（☞CQ5, 6参照）。
- 低血糖のハイリスク薬の併用がない場合は、SGLT2阻害薬は低血糖を起こしにくい薬剤です（☞CQ5参照）。

低血糖の症状

- 血糖値が70mg/dLを切ると低血糖と定義されることが多いですが、症状の出方には個人差が大きいため注意が必要です。
- 早い段階で気付いて対処することが重要です。
- 高齢者や糖尿病罹病期間が長い患者は、自覚症状が乏しい**ため注意が必要です。

低血糖への対処

- 医師の指示に従うのが原則ですが、**ブドウ糖なら10g、砂糖なら20g、清涼飲料水なら150～200mL程度が、補給量の目安**となります。
- 低血糖時の飲料としては、糖質ゼロ飲料ではなく、りんごジュース、コーラ、カルピスなどの糖質を多く含むものが適しています。
- 糖分を補給したら大体5分程（15分以内）で回復します。
- 30分程経つと再度低血糖となる場合もあるため、回復後は食事や軽食を摂るよう勧めてください。
- 低血糖は心血管障害や認知症、死亡のリスクとなります。また、低血糖を繰り返すと感知する力が鈍くなり、早い段階で自覚・対処することが難しくなります。患者には低血糖イベントの自己管理ノートへの記録や受診時における報告を促し、繰り返す場合には治療の見直しも考慮してください。
- SGLT2阻害薬服用中は空腹感を感じやすく、過食に陥ることもある**ため、併せて注意してください。

低血糖が起きやすいのはどんなとき？

- この他、高齢者、慢性腎臓病、シックデイ、周術期、入浴後などの要因も低血糖のリスクとなります。

参考文献
 日本糖尿病学会：糖尿病治療ガイド2022-2023, 文光堂（2022）
 日本糖尿病学会・日本老年医学会：高齢者糖尿病治療ガイド2021, 文光堂（2021）
 厚生労働省：重篤副作用疾患別対応マニュアル 低血糖, 2018年6月改訂版,
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/11/dl/tp1122-1d25.pdf> 2023.5.24アクセス

低血糖

血糖値 (mg/dL)

70

↓

50

↓

20

● 低血糖の症状

ひどい空腹感	生あくび	
冷や汗	手の震え	動悸・頻脈
頭痛	脱力感	顔面蒼白
眩暈	めまい	目のかすみ
異常行動	意識消失	
けいれん	昏睡	

※ 必ずしもこの通りの順に症状が現れるわけではありません。



● 低血糖への対処

- ✓ 低血糖症状が現れたら、ブドウ糖、砂糖、あるいは糖質入りの清涼飲料水などを摂ってください。次の食事までに時間が空くときは、クッキーなどの腹持ちの良い糖分を摂りましょう。
- ✓ α-グルコシダーゼ阻害薬を服用中の患者さんは、必ずブドウ糖を摂ってください。
- ✓ 外出時にも対処できるように、糖分を携帯するようにしましょう。
- ✓ 症状が回復しない場合は、ただちに医療機関を受診してください。

● 低血糖が起きやすいのはどんなとき？

- ✓ 他の糖尿病治療薬（特にインスリン、スルホニル尿素薬、速効型インスリン分泌促進薬）を併用しているとき。
- ✓ 薬の量を間違えたり、服用する時間がずれたりして、処方通りに薬を服用できなかったとき。
- ✓ 食事が遅れたり、量がいつもより少なかったとき。
- ✓ 運動をしたとき。
- ✓ 多量の飲酒をしたとき。



©2023日本腎臓病薬物療法学会